

Be Fine!

株主の皆様とシスメックスをつなぐコミュニケーション誌

特集

シスメックスの環境への取り組み

新たな環境方針を策定し、活動を加速…… 5ページ



Sysmex Astrego ABの所在地があるスウェーデン → 4ページご参照

IFRS ※当社グループは2017年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用し、IFRSに準拠して開示しております。
 ※2022年3月期に、クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションのコストについて、サービスを受領したときにそのコストを費用として認識する方法に変更しており、遡及処理の内容を反映させた数値で2021年3月期および2022年3月期との比較を行っています。

売上高、 営業利益ともに 増収増益を達成しました。



代表取締役社長

浅野 董

あさの かおる

【出身地】兵庫【略歴】大学院を卒業後、川崎重工工業株式会社に入社。その後、1987年東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)に入社し、2009年執行役員中央研究所長、2017年取締役専務執行役員を経て、2023年現職に就任。【趣味】陶芸、将棋【信条】雲外蒼天

ポイント1 売上高は、海外地域が好調に伸長し、増収

ポイント2 営業利益は、売上伸長による粗利益増加などにより、増益

ステークホルダーの皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2024年3月期 第2四半期の業績は、中国・AP地域の2桁伸長をはじめ、すべての海外地域が伸長し、増収となりました。営業利益は、売上高伸長にともなう粗利益の増加や円安効果により、増益となりました。一方、四半期利益*は為替差損益の影響により減益となりました。売上高は前年同期比9.6%増、営業利益は同2.0%増、四半期利益は同7.5%減となりました。なお、前年同期の為替レートを適用した場合、売上高は前年同期比6.3%増、営業利益は同11.2%減となります。

事業別で見ると、ダイアグノスティクス事業は、ヘマトロジー*・尿・血液凝固分野などの主要分野が伸長し、増収を達成しました。特に、グローバルでNo.1シェアを確立しているヘマトロジー分野が、米州や中国、APにおいて機器・試薬ともに2桁伸長し、増収を牽引しました。また尿分野も、米州をはじめEMEA*、APで機器・試薬ともに伸長しました。メディカルロボット事業は、手術支援ロボット「hinotori™サージカルロボットシステム」のバージョンアップ版発売を見据えた導入

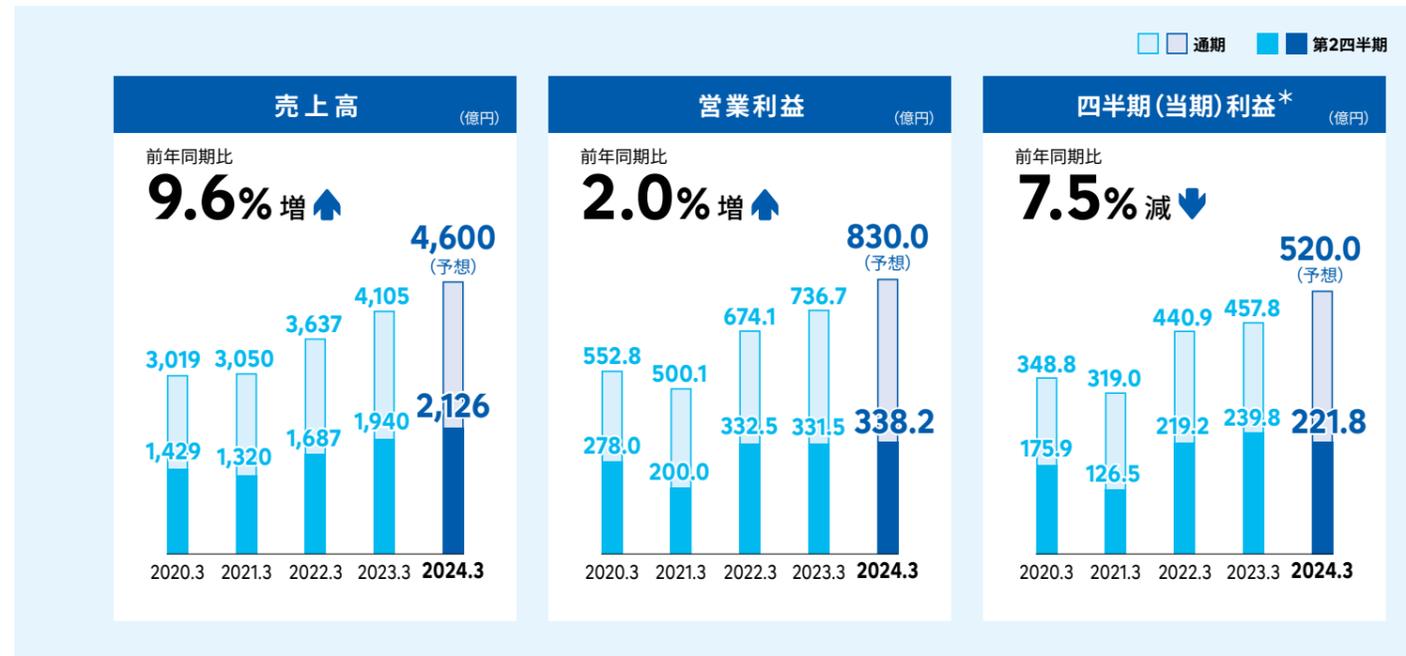
時期調整の影響もあり、上期累計4台の導入を果たすも、減収となりました。なお、株式会社メディカロイドは、シンガポールにおける販売承認を取得するとともに、シンガポールと愛知県の2拠点間での遠隔手術の実証実験に成功するなど、着実に海外展開への布石を打っています。

2024年3月期の連結業績予想につきましては、昨今の為替変動の状況を鑑み、想定為替レートを見直しました。業績予想は5月に公表した数値から変更はなく、売上高は4,600億円、営業利益は830億円、当期利益は520億円を見込んでいます。

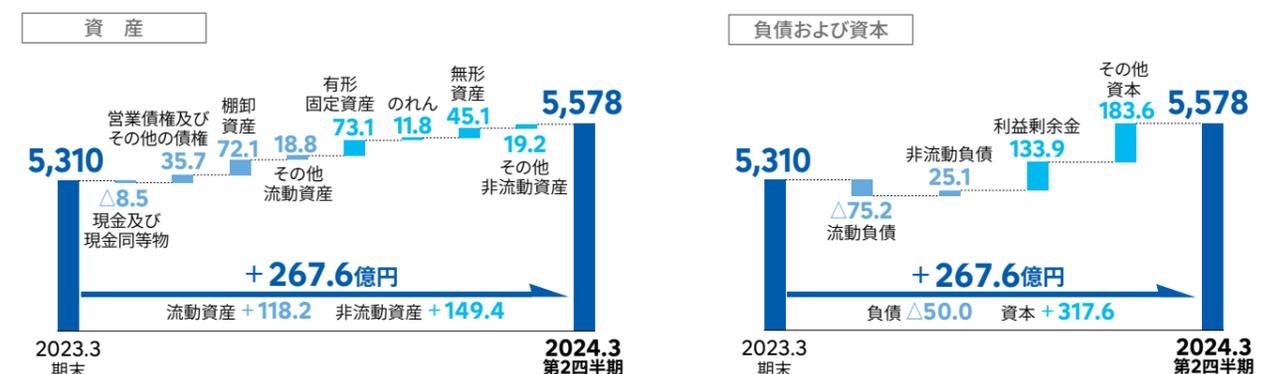
配当につきましては、期初予想通り、1株につき年間で84円(中間42円、期末42円)を予定しております。

ステークホルダーの皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

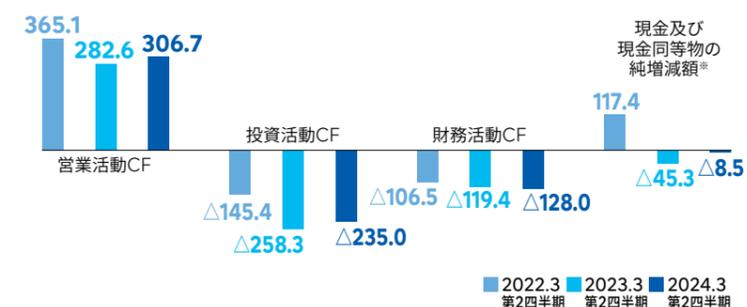
	■2024年3月期通期業績予想 (億円)			■想定為替レート (円)		
	売上高	営業利益	当期利益	1USDドル	1ユーロ	1中国元
2023年11月発表	4,600	830	520	143.0	154.2	19.9
2023年5月発表	4,600	830	520	133.0	143.0	19.2
【参考】 2023年3月期実績	4,105	736	457	135.5	141.0	19.8



連結財政状態計算書の増減要因 (億円)



キャッシュ・フローの推移 (億円) ※現金及び現金同等物に係る換算差額も含まれております。



1株当たり配当金/配当性向



利益配分(配当)に関する考え方について: 当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

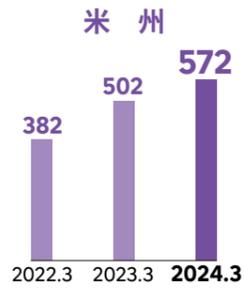
本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。

*四半期(当期)利益:親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益。

*ヘマトロジー分野:血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査分野。

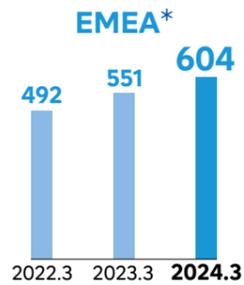
*EMEA:欧州、中東、アフリカ地域。

地域別売上高 (億円)



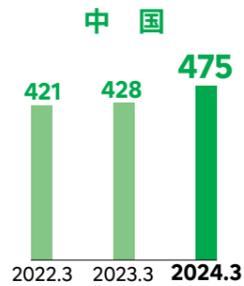
前年同期比 **13.8%増** ↑ **8.2%増** (現地通貨ベース)

北米に加え、販売体制を強化したブラジルを中心に、中南米が好調に推移。ヘマトロジー*・尿分野が機器・試薬ともに伸長し、増収



前年同期比 **9.6%増** ↑ **0.9%減** (現地通貨ベース)

COVID-19関連検査の減収など特殊要因の影響があったものの、サウジアラビアやスペインなど、直販化に移行した国を中心に売上が伸長し、増収



前年同期比 **10.8%増** ↑ **11.8%増** (現地通貨ベース)

現地生産品の上市により、ヘマトロジー分野は機器・試薬ともに2桁増収。その他分野も試薬が伸長し、増収



前年同期比 **17.2%増** ↑

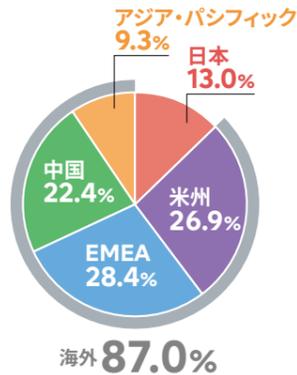
インド・韓国・オーストラリアで、ヘマトロジー・尿分野が大幅伸長した他、インドネシアを中心に免疫分野が好調に推移。機器・試薬ともに、2桁増収



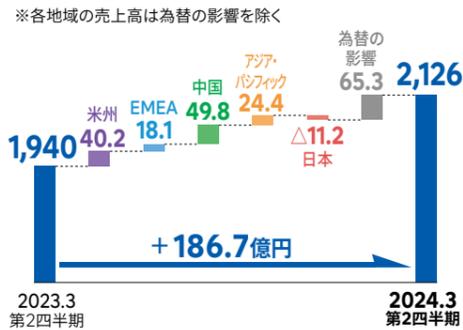
前年同期比 **3.9%減** ↓

ダイアグノスティクス事業において、機器は新製品の販売が好調なヘマトロジー・尿分野を中心に伸長したものの、試薬はCOVID-19関連検査が減少し、減収。メディカルロボット事業は今年新たに4台を導入

地域別売上高構成比



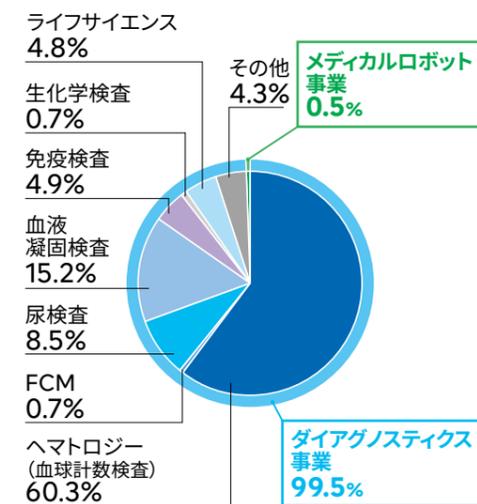
地域別売上高の増減 (億円)



■為替レート(期中平均) (円)

	2022.3 第2四半期	2023.3 第2四半期	2024.3 第2四半期
1 USドル	109.8	134.0	141.0
1 ユーロ	130.9	138.7	153.4
1 中国元	17.0	19.9	19.8

事業別売上高構成比



- ライフサイエンス 4.8%
- 生化学検査 0.7%
- 免疫検査 4.9%
- 血液凝固検査 15.2%
- 尿検査 8.5%
- FCM 0.7%
- ヘマトロジー(血球計数検査) 60.3%

NEWS

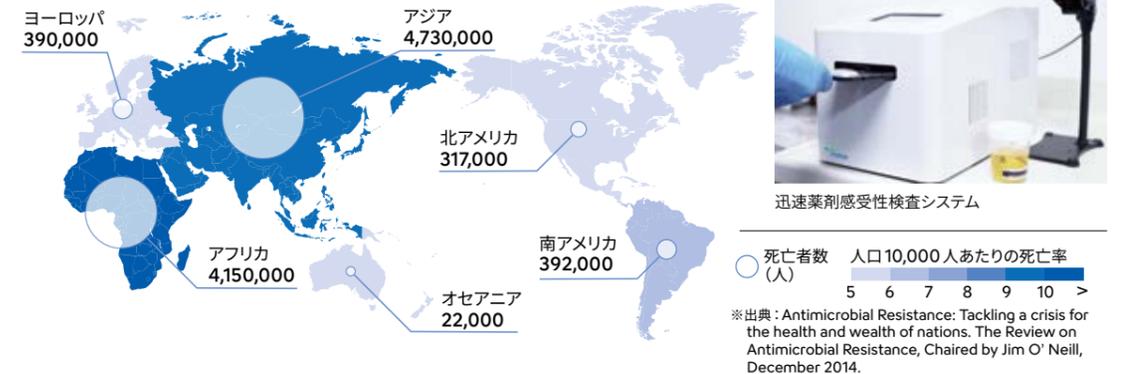
世界初、薬剤感受性迅速検査システムを欧州で販売開始

感染症の治療や予防のために使われる「抗菌薬」は、人々にとってなくてはならない薬です。しかし、不適切な使用などにより、抗菌薬が効きにくくなる、または効かなくなる薬剤耐性 (AMR: Antimicrobial Resistance) が、世界的な問題となっています。AMR対策がなされない場合、2050年には薬剤耐性菌による死者数が世界で年間1,000万人*を超えることが予想されています。

シスメックスは、このような社会的課題解決に向けた製品の開発を、2019年から取り組んできました。2022年5月には共同開発パートナーであるAstrego社をシスメックスグループに迎え入れ、開発スピードを加速。そして、感染症の中でも罹患率の高い尿路感染症に注目し、この疾病が疑われる患者さんの尿検体を用いて、細菌の有無および抗菌薬の有効性を判定する迅速薬剤感受性検査システムを開発。2023年6月より欧州で発売を開始しました。

本システムは、従来は数日かかっていた検査時間を、測定開始後最短約30分で判定することができ、患者さんへの適正な抗菌薬の処方支援ができます。今後は対象地域や疾患を順次拡大し、世界を脅かすAMR対策に貢献することを目指します。

予想される2050年までのAMRに起因する死者数*



迅速薬剤感受性検査システム

現場の声

Q 開発の様子について教えてください。



Sysmex Astrego AB 研究開発部門 Lovisa Söderberg

開発当初は乗り越えなければならない課題が多様であり、販売に向け技術を製品に仕立て上げるための開発は大変な道のりでした。正確な検査結果を提供できる使いやすいシステムとするために、品質基準の達成をはじめ、さまざまな面から一つひとつ改良を重ね、粘り強く開発を進めてきました。その過程で、開発の初期段階から、お客様より良いフィードバックをいただいたことは、私たちの技術がAMRとの戦いに必ず変化をもたらすという自信につながりました。

WEB 取り組み紹介サイトのご案内

シスメックスとAstrego社のパートナーシップおよびこれまでの歩み、従業員たちのAMR対策にける想いを当社ウェブサイトでも紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://www.sysmex.co.jp/stories/221118.html>



HUP事業本部 プライマリケア事業推進部 課長の梅野哲嗣と、Sysmex Astrego AB CEOのMikael Olsson (ミカエル・オルソン) による対談をお届けしています。

シスメックスの環境への取り組み 新たな環境方針を策定し、 活動を加速

気候変動への適応・緩和をはじめ、水資源や生物多様性の保全など、環境問題は世界全体が抱える大きな課題の一つです。ヘルスケア市場においても、温暖化による熱帯病の流行地域拡大など医療費の増加、医療インフラの圧迫に影響を与えることが懸念されています。このような社会背景を受け、近年は医療機関においてもカーボンニュートラルなど環境負荷低減への取り組みが広がっています。

「シスメックス・エコビジョン2033」を策定

環境への対応が喫緊の課題となっている今、環境配慮は企業としての社会的責任であると同時に、市場競争力の強化にもつながると考えています。シスメックスは2000年に環境方針を策定し、製品の設計から、開発、生産、物流、販売、サービスなど各ライフサイクルにおける環境負荷の低減に取り組んできました。この動きをさらに加速するため2023年4月、環境への取り組みを中心に、事業活動を通じた社会課題解決を推進するES（エコ・ソーシャル）戦略推進室を立ち上げました。

さらに2023年5月、長期経営戦略の策定に合わせて、新たに「シスメックス・エコビジョン2033」を策定しました。これは、2033年に向けて目指す長期環境ビジョンであり、ステークホルダーの皆様と共にグリーンイノベーションに挑戦し、資源循環型バリューチェーンの実現を目指しています。具体的には、環境配慮型の製品・サービスの創出、脱動物由来原料の拡大、未使用自社製品の廃棄ゼロ化やリサイクルの強化、脱炭素活動などへ継続的に取り組んでいきます。

シスメックス・エコビジョン2033

■長期環境ビジョン

環境と健康の関わりを認識し、循環型社会の実現に新たな常識を協創する。

■長期環境目標

気候変動	水	資源循環	生物多様性
再生可能エネルギー比率 90%以上 自社温室効果ガス排出量 (スコープ1、2) 55%削減* サプライチェーンの 温室効果ガス排出量 (スコープ3) 35%削減*	主要な試薬生産拠点の 試薬生産量当たりの 水消費量 90pt削減*	未使用自社製品の廃棄 ゼロ 売上高当たり総廃棄物量 15%削減* 容器と包装材のリサイクル・ 環境配慮材料の使用率 100%	脱動物由来原料製品の ラインアップを拡充

※数値は2033年度目標(基準年度:2022年度)

環境配慮の具体的事例

物流における環境配慮



ステークホルダーと共に実現するドライアイスフリーの超低温輸送

環境・社会への配慮

- 温室効果ガス排出量削減
- 健康被害の回避
(二酸化炭素中毒)

競争力強化

- 輸送コスト削減、流通の柔軟性
- 利便性の向上
- ユーザビリティの向上
(視界不良による取り忘れがない)

厳格な品質・温度管理が必要な遺伝子検査用試薬は、専用便で輸送する必要があるため、輸送コスト、流通の柔軟性、利便性などが課題となっていました。また、保冷にはドライアイスを使用しており、環境への負荷が懸念されていました。

そこで2021年度、ヤマト運輸株式会社と連携して、マイナス70度超低温帯での遺伝子検査用試薬の混載輸送をドライアイスフリーで実現しました。これは体外診断用医薬品業界において国内初の取り組みであり、超低温で凍結した蓄冷材をドライアイスの代替として活用しています。また、2022年度には東邦薬品株式会社と協力し、生化学用精度管理物質にもドライアイスフリー輸送を開始しています。



新開発の蓄冷材による製品梱包

研究開発における環境配慮



独自の研究開発力を生かした省電力化・小型化製品の実現

環境・社会への配慮

- 消費電力の削減
- 洗浄液量の削減

競争力強化

- 医療機関における
環境配慮設計への評価

サステナブルな社会への関心が高まっている中、シスメックスは、お客様が製品を使用される際のエネルギーや廃棄物の削減に貢献するため、グローバル規程に製品ライフサイクルの各段階における環境配慮の取り組みを盛り込み、検体検査装置の省電力化、試薬使用量の削減などに配慮した製品開発に取り組んでいます。

2022年に発売された全自動尿中有形成分分析装置では、従来装置よりサイズを30%縮小、1測定あたりの洗浄液量を10%削減し、消費電力も約30%削減することで環境配慮設計を実現しました。

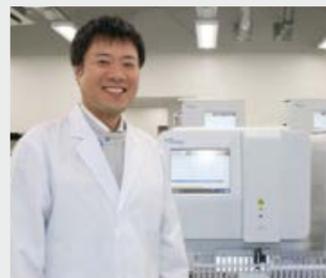
■従来機種との比較

小型化
高さ -24cm 奥行 -28cm
設置面積 30%縮小
消費電力 30%削減
洗浄液量 10%削減



全自動尿中有形成分分析装置

現場の声



従来の尿検査分野の分析装置は、大学病院など大規模施設を中心にシェアを拡大していましたが、中小規模の病院やクリニックなどのお客様にとっては、装置のサイズが大きいことや試薬関連のランニングコストが課題でした。そこで、従来製品では2本あったノズルなどを1つに集約することで、製品の小型化と洗浄液量の削減を実現しました。これにより、お客様のニーズにお応えすることに加え、環境負荷を低減する製品を開発することができました。今後もチームで協力し、お客様のニーズと環境配慮を両立した付加価値の高い製品開発を推進していきます。

システムエンジニアリング本部
細胞技術グループ 池田 正行



掲載しております2次元コードは、
カメラの画面で2次元コードを映し、リンクをタップしてください。

株主様アンケートのお願い

今後の充実した誌面づくりのため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

パソコン、スマートフォンから
ご回答をお願いいたします。

<https://q.sysmex-survey.com/1947330279/>



コンセプトムービー動画のご案内

シスメックスは新長期ビジョン「より良いヘルスケアジャーニーを、ともに。」を定め、イノベーションの創出と新たな領域へのチャレンジに取り組んでいます。本ビジョンをステークホルダーの皆様にご理解いただくため、コンセプトムービーを制作しました。ぜひご覧ください。



▶ コンセプトムービー

https://www.sysmex.co.jp/corporate/philosophy_brand/brand.html#brand02



「シスメックスレポート2023(統合報告書)」 「サステナビリティデータブック2023」を発行

シスメックスレポートでは、5月に公表した長期経営戦略や長期ビジョン、中期経営計画、価値創造に取り組む従業員のインタビューなどを紹介しています。ESGの具体的な取り組みについては、サステナビリティデータブックに掲載していますので、合わせてご覧いただければ幸いです。



シスメックスレポート2023(統合報告書)



シスメックス サステナビリティデータブック2023



「株主様会社見学会」開催見送りのお知らせ

感染症拡大の観点から、今年度は見学会の開催を見送ることいたしました。ご参加を心待ちにされておりました株主様には大変申し訳ございません。再開後の機会をお待ちくださいますようお願いいたします。

会社概要

(2023年9月30日現在)

■商号 シスメックス株式会社
SYSMEX CORPORATION
■設立年月日 1968年2月20日
■資本金 145億5,062万円

■格付け AA- (R&I:格付投資情報センター)
■従業員数 10,824名(連結) 3,255名(単独)
*嘱託・パートタイマーなどを含む
■主な事業内容 臨床検査機器、検査用試薬ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

株主メモ

■事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会 6月
■基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

■公告方法

当会社の公告方法は、電子公告とします。
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告掲載ホームページアドレス
www.sysmex.co.jp/ir/stocks_bonds/notice.html

お知らせ

1.株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取り扱いいたします。 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

